



吸血鬼は美少年の精液しか吸わない

18禁
成人向け

ご注意

吸血鬼パラレルです。
長谷部も厚も刀剣男士ではありません。

作中では厚がモブのおっさんに囲われていた設定です。
また、長谷部が捕食の為に他人を襲っていた設定もあります。
直接的な描写はありませんがご了承ください。

また、この本は18禁です。
高校生を含む18歳未満の方は閲覧できません。

ツイッターで流れてきた、本の一節
「ベネズエラの吸血鬼は同性愛的で、狙った美少年の
精液しか吸わない」(種村季弘「吸血鬼幻想」より)
でめちゃくちゃ盛り上がった結果の一冊です。
そのせいで長谷部が美少年の精液フェチですが許してください。
妄想するのも描くのもめちゃくちゃ楽しかったです・・・！

和服を描きたいという理由で時代設定がちょっと昔です。
開国してから少し経ったころの日本、くらいのイメージで
なんとなくお読みいただければ…
あと、敢えて二人の過去を色々ぼかして描いてます。
お好きなように妄想しながらお読みいただければ幸いです。

それではどうぞ～

もう満月に近い
この明るさなら
走れる

大丈夫だ
あいつは朝まで
気付かない

たたたた

はあ、

はあ、

今のうちに
外に出れば……!

でもそのあとは
どうする!?
頼れる者も
行く当てもない……!

!!

もう追手が!?

………?
いや……あれは……

ふん、

おいあんた!

大丈夫か?
具合が悪いのか?

たっ

へんげい





甘い！



あまい！
今まで味わった
どんな甘露よりも
素晴らしい！

まるで俺のために
逃えたかのような...

いや
これはまさに
俺のためにあるのだ



あまい！



運命

とても
いづべきものだ

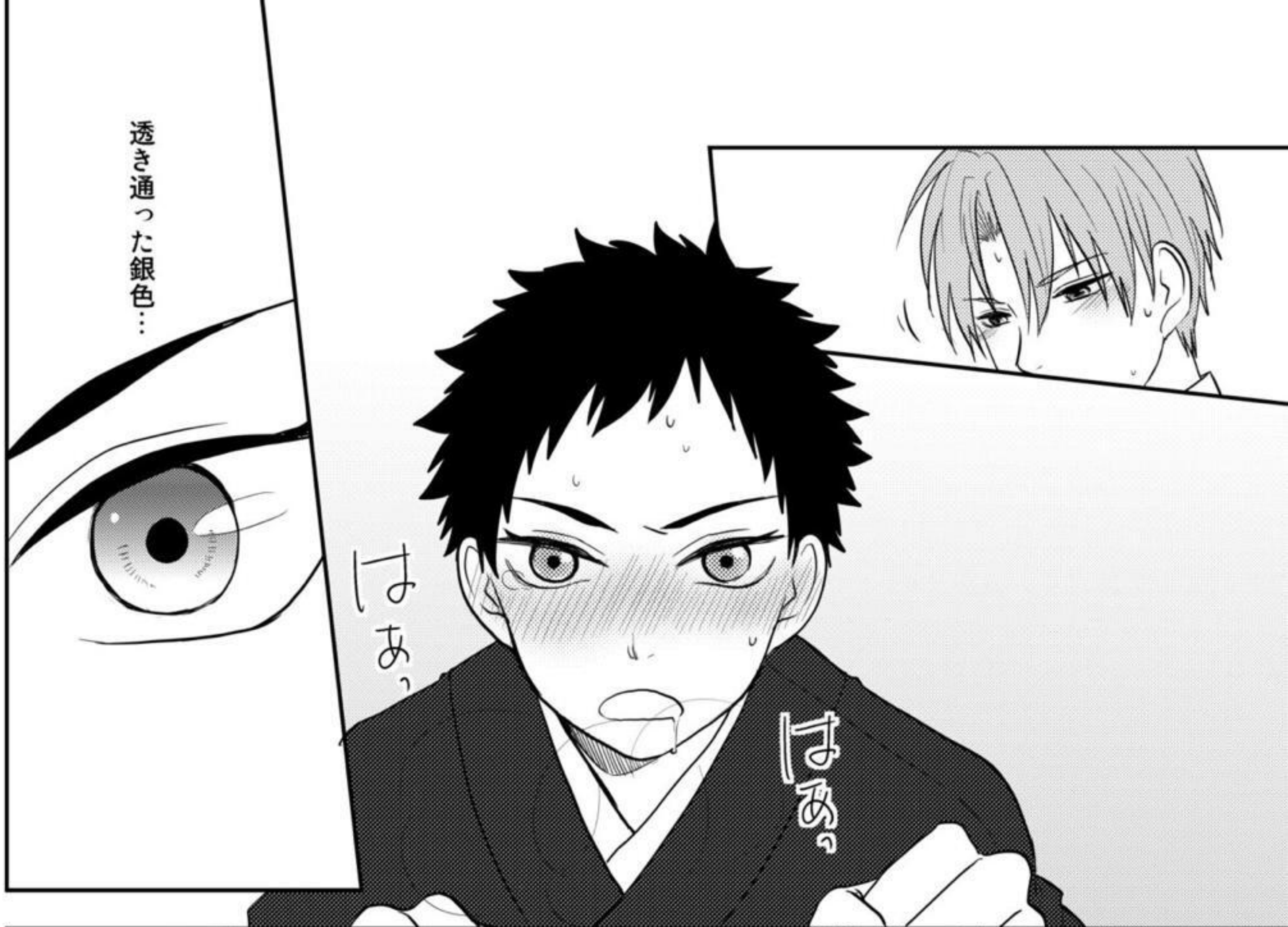
もうずっと
ずっと求めていた

ふるふる

腹を満たすために
うまくもない
男や女を口にしながら

決して満たされない
なにかを抱えて





透き通った銀色…

はあ、

はあ、



なんと美しい…

あんた突然
なんなんだ！

あんたも俺を
稚児にしよう
ってのか！？

！



なんてことだ…！
飢えていたとはいえ
欲望にまかせて
襲ってしまうとは！

すっすまない！
そんなつもりでは
なかったんだ！

はっ

その…
感極まって
しまつて…！

とにかく
悪気はない！



空き家だったのを
数年前から借りて
住んでいる

町外れの洋館に
身元もわからん
男が一人きりだ

そうそう
近寄ってくる
者はおらん

夜中に一人
住民が増えたとい
ばれることはない

外では暗くて
わからなかった
けれど……

とてもきれいな

藤色……

ああ
目の色か？

外国の血が
混じっていてな

だから余計にお前を
放っておけなかった

あ……

お前も混血
なんだろう？

とてもきれいな
銀色の瞳を
持っているから

俺は……
捨て子だった
らしいから
本当のところは
わからないんだ

金持ちの家に拾われて……
目の色が珍しいからと
囲われていた

見世物みたいに
扱われたり
使用人たちには
気味悪がられたり……

耐えられなくて
逃げ出してきたんだ

それは……
つらかったな



おっ俺！
厚っっていうんだ！
あの…ええと



そうか…この人も
俺と同じなんだ



自らを
正当化する為に

異質なものを
見下さずには
いられない…

愚かなことだ



やっぱり…
しばらくここで
匿ってもらえないか？

長谷部…さん



ああ
名乗って
いなかったな

俺は長谷部だ



雑用でもなんでも
言いつけてくれ！
俺にできるのは
それくらいだから

そうだな
家の中の
細々とした事を
やってくれるなら
助かる

ああ！
まかせてくれ！



もちろんだ
好きなんだけ
いるといい

ありがとう！
恩に着る！

やはり
足りない…か

口吸い程度では
誤魔化しにしか
ならない…

近いうちに
もう一度
出かねば…

だがもう少し…
満月は過ぎたが
せめてもう少し
月が欠けるまでは…

ガタッ

長谷部!
大丈夫か?
まだ具合が…?

ギイニ

ああ…厚…
大丈夫だ
少し疲れている
だけだからな

でもそんな
真っ青な顔で…!!

部屋が暗いから
そう見えるだけだ

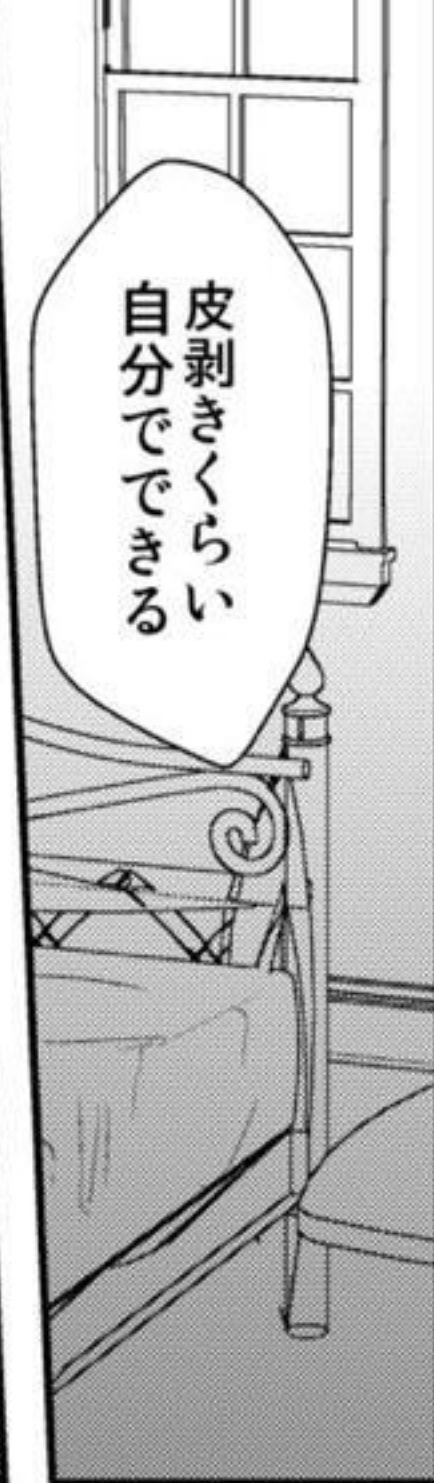
でっでも!
疲れてるなら
ちゃんと部屋で
横になってくれよ!

わかった
ちゃんと寝るから

ぐいぐい

それにあんた
また何も食べ
ないんだろう!

俺が何か
持って行くから!







やはり極上だ

足りない

足りない

ぺちゃっ

あまい

もつと……ッ



痛……ッ!!

ぐくっ

ちゅうっ



!!!

いっ

どうしたんだよ……
なんで血なんか……?

ぐわ

……隠し通すのは
厳しいか……

……それが
俺にとっての
食事だからだ

食事…？

そうだ…
俺は人間ではない

人の生き血を
啜って生きる…
妖のようなものだ

それを知った
人間からは
恐れられ

鬼と呼ばれた
ことさえある

鬼…

ああ

血を吸う鬼…
「吸血鬼」と

長谷部は
ゆっくりと
説明した

生きる為には
人間の体液が必要で
今までも幾度と無く
人を襲ってきたこと

確かに俺達は
人間を襲う

しかし必要なのは
その体液であって
殺す必要性はない

血や精液といった
命の源となる体液が
いちばんいいのだが

唾液や涙などでも
ある程度の腹の足し
にはなるんだ

殺さずとも方法は
いくらでもある

不老不死に近い
身体を持っていて
長い間見た目が
変わらないこと

そのせいで
長く同じ所に
住めないこと



じゃあ
今は…

不覚だが…
空腹が酷くてな

久々に血を見て
我を忘れてしまった
……驚かせたな

あんた
腹が減って
元気がなかったのか



食うものが
ちよっと違って
年取らないだけ
じゃないか

お前は俺を
恐れないんだな

恐れる？
なんでだ？

俺は人間から見れば
化け物のような
ものだろう？

だって俺と
どう違うんだよ？

まあ
そういうことに
なるが…



…全然違うだろう

違うないよ
人間を頭っから
バリバリ食うって
んなら別だけどき

あんたは俺を
殺さないんだろ？

ああ
そうだな

おかしな奴だ
普通はここで
逃げ出すものだろうに





それから日課に
「長谷部の食事」
が加わった

厚

長谷部は
腹が減ると
俺を膝に乗せて

キニツ

腰が砕けるほど
しゃぶりつくす

カクガク

ちゅっ

んっ…

ちゅっ



はあはあはあはあ

ふは

「長谷部の食事」は
すごく疲れるから

そのまま昼寝に
なだれ込むのも
いつものことだ

長谷部は
人間とは
全然違うのか？

※夜のお食事中。

…なんだ突然

なんとなく
気になって…

……そうだな

どう
説明するか…

俺の身体は
治癒力も高いし
食事も時々でいい

しかし日光に弱い
死にはしないが
身体がだるくなり
動きが鈍くなる

朔の日は
調子がいいが
月が満ちてくると
外に出たくない

不死に近いとはいえ
飢えれば死ぬし
弱っている時に
大怪我をすれば
やはり死ぬ

ふうん…

なんだ
お前が聞いて
きたんだろう？

へへっ
ごめんごめん

人によって
味は違うのか？

ああ
うまい奴もいれば
まずい奴もいる

俺はうまい？

気になるか？

そりゃあ
もちろん…ッ

——極上だ

お前の血も唾液も
この世の全てに優る
至高の甘露だ

これを味わって
しまったらもう
他の奴など
口にできない

……言いすぎだろ

言い過ぎなものか

俺にとってはもう
欠かせない
大切な

かあ





ああ
血の匂いで
くらくらする――











ふうん…？

ああ
従者のようなものだ

けんぞく…？

そうして
血を吸われた人間は
その眷属となる

俺はたまたま
お前の傷口から
血をもらったが…

本来は噛み付いて
吸血するんだ



眷属もまた
不死に近い
身体へと変わり
主人に生涯寄り添い
その糧となる



この数日間で機会は
いくらでもあった



だが
突然眷属にされる
人間の辛さも
俺は知っている



正直に言えば
俺はお前を
眷属にしたい

お前の血を吸い
俺の血を啜らせて
永い時を生きたい

………！

俺の眷属になれば
もう人間としては
生きられない

古いぬ身体となれば
外見もそのまま
変わらなくなる

その先に
待っているのは
途方も無い時間だ

自分だけが
変わらないまま
周囲がどんどん
変化していく

それに
耐えられない者も
多いと聞く

俺の身勝手に
お前を不幸に
したくはない

それでも
俺はお前を
眷属にしたい

そんな顔をするな

虫のいいことを
言っているのは
俺だ

……

こんなことは
想像もして
いなかった
だろうが……

少し……
考えてみて
くれないか？

うん……



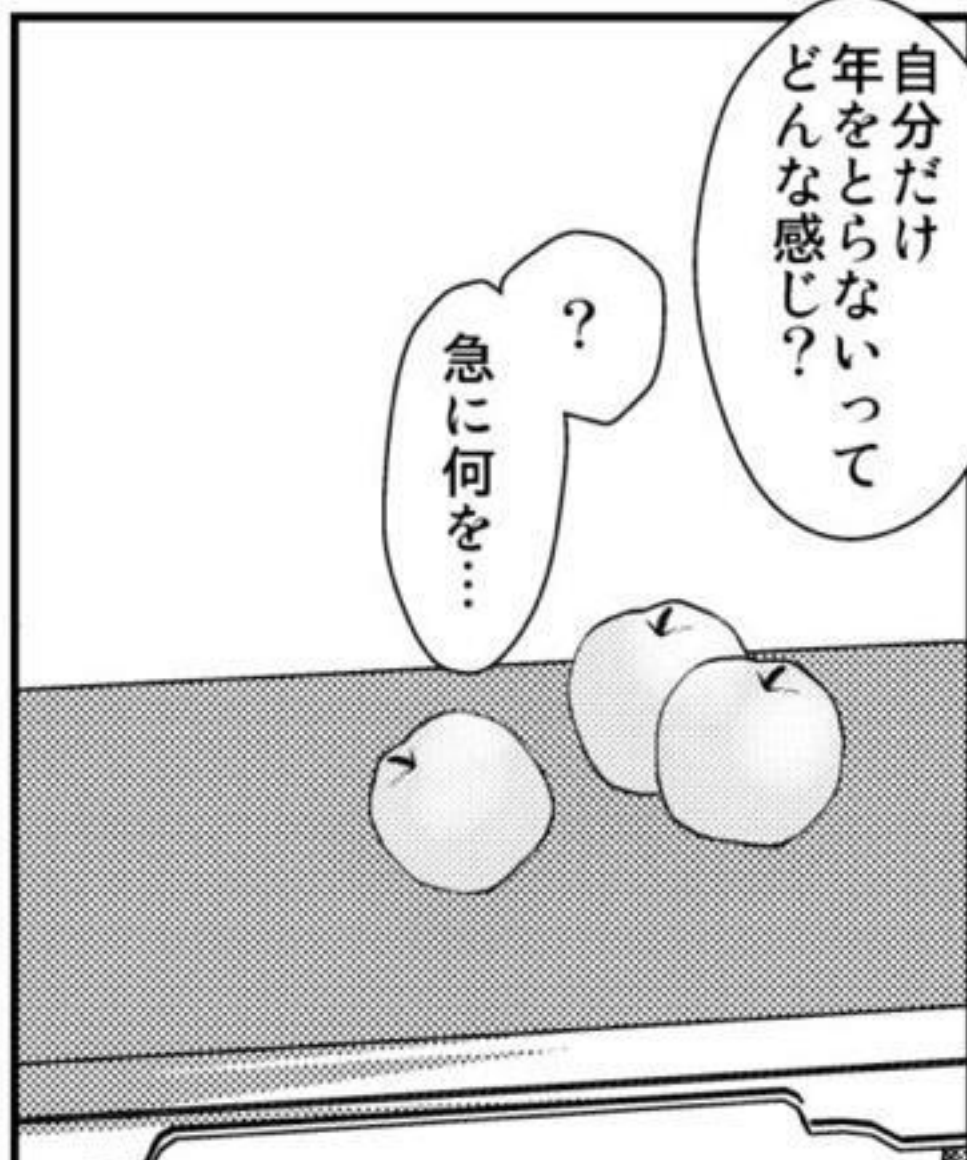
その先に
待っているのは
途方も無い時間だ

自分だけが
変わらないうまま
周囲がどんどんと
変化していく

なあ長谷部



やっぱり
寂しいのかな？



自分だけ
年をとらないって
どんな感じ？

？
急に何を…



んああ
起きたのか
なんだ？



この人の孤独を
埋めてあげたい

さみしくないように

飢えないように

ずっとそばに
いてやりたい

長谷部

むくり

俺
長谷部とずっと
一緒にいたい

長谷部のことが
大切だ

大好きなんだ

それなのに！

このままじゃ
俺はいつか
長谷部を残して
死んじゃう！

そんなの嫌だよ！

人間じゃ
なくなっちゃって
成長しなくなっちゃって

俺の時間が
止まったって
長谷部がいる

長谷部がいるなら
なんでもいい

俺は長谷部を
ひとりぼっちに
したくないよ！



俺を眷属に
してくれよ……!

もう人間には
戻れない

眷属にして
しまったらもう
俺から離れることは
かなわないぞ

本当に
後悔しないか?

しない



俺を眷属にしたら
絶対に離れて
やらないからな!



覚悟しとけよ!



上等だ!



じゃあ早速…

いや…
まだだめだ

なんでだよ？
まだ何か問題が
あるのか？

お前がまだ
精通を迎えていない

ほっ



……は？

今管属にしたら
永遠に精液が
出ないかもしれない…！

カッ



結局、厚が
精通を迎えたのは
数ヶ月後だった

なあ俺ちよっと
早まった気が
してきた！

それだけは絶対に
阻止せねば…！

それまでは
唾液で耐えるぞ

吸血鬼は美少年の精液しか吸わない(予定)

長谷部国重

藤色の瞳に煤色の髪。普段は人間に紛れて生活している。
外見年齢が長いこと変わらないため、定期的に住処を変えながら生きている。
昔一度吸血鬼であることがバレて迫害されかけたため
それからは更に慎重に自分の正体を隠して生きている。
自分が吸血鬼であることをあまりよく思っておらず、
昔迫害された時に「バケモノ」と呼ばれたことを地味に気にしている。

現在の住処は村外れにひっそりと建つ小さな洋館。
空き家になっていたのを借りて住んでいる。
たまに暗殺などを請け負って生計を立てている。
服装は基本的に洋服。ただし、やむを得ず人前に出るような時は和服を着る。

あまり捕食を行わない。
暗殺の際の返り血を舐めたりしながら限界ギリギリまで我慢し、
もうこれ以上耐えられないところまで来た新月の夜に、
人気のない場所で浮浪者などを襲い、精液などを吸っている。
正直嫌悪感しかわかないが、一番効率よく栄養を摂取できるのが精液であり
また、限界ギリギリまで耐えてげっそりとした風貌では、さすがの長谷部も女を買えない。
(病気などを疑われたりしてまず店に入れてもらえない)

厚と出会ったのはあまりの飢えに、月夜に獲物を探していた時。
外見が超絶好みだったのでうっかり襲った。今は反省している。
しかし行き場がないと知るとすかさず自宅へ連れ込んだ。

厚 (姓は不明)

目が青みがかった銀色。
恐らく混血だが、両親は既にないためよくわからない。
捨てられていたところを村の金持ちに拾われ、
稚児のような扱いを受けていたが、嫌気が差してついに逃げ出した。
一応外向きは金持ちの養子という扱いになっており、
姓は金持ちのものを与えられているが、絶対に名乗ろうとしないので長谷部も知らない。
眼の色はコンプレックス。
育ってきた環境からか、若干表情が固く、警戒心が強いが
同じように周りと違う色を持つ長谷部には警戒心が緩む。

元々の性格はまっすぐ素直ないい子。
長谷部のことは恩人だと思っている。
長谷部の正体を知っても全く態度が変わらなかった。
捕食を我慢している長谷部が心配でしょうがなく、せっせと世話を焼いている。
長谷部の性癖に思わずドン引きしたものの、
早く長谷部の眷属になって一緒に生きられるようになりたい。
でも長谷部を守れるようになりたいので、
眷属になる前にもうちょっとくらい大きくなりたいなあともちょっとだけ思ってる。

オチが酷いですが仕様です。

ここまでお読みくださりありがとうございました。
へし厚の可能性が無限大すぎて震えてます。へし厚尊い…

前書きでも書きましたが、厚くんが困われてた間何されてたかとか
長谷部は今までどうしてたのか、とか、その辺は敢えてぼかしたつもりです。
お好きなように妄想していただければと思います。
もしよかったですら私にその妄想を教えて下さい。聞きたいです。
そのままへし厚語りもしたいです。大歓迎です。

最初プロットを切ったら長くなりすぎて、泣く泣く削った部分がいくつかありまして。
長谷部が飢えのあまり夜な夜な厚くんを夜這いをかけて起こさないように
キスして唾液吸ってたりとか、長谷部が厚くんを眷属にしたいけどでも厚くんのことを
考えると眷属にしないほうがきっと幸せだとか言ってくだぐだ悩んでたりとか…。
特に夜這いのシーンはプロットの時点で楽しくなりすぎて小説もどきになっちゃって
大変気持ち悪いシーンになってお気に入りだったので(笑)
そのうち手直ししてpixivにでもこっそり上げたいなあと思ってます。
言うだけならタダだぜ！

どうしてもうちのへし厚は長谷部がツンデレヘタレのにぶちんになっちゃって、話が進まなくなります。
いつも長谷部が自覚するのに時間がかかったりとか自分の気持ちをなかなか認められなかったり
伝えられなかったりするんで…長谷部くん面倒くさいよ。そこが好きだけど。
で、この本は、じゃあ長谷部の厚くんへの好感度を最初からカンストさせたらどうなるんだろう？
っていう試みでもありました。実は。
そしたらなんということでしょう。変態になりました。どうしてこうなった！＼(^o^)/
いやこんな特殊設定本で試みたのがいけませんでしたね！？リベンジしたいです。機会があれば。
でも、結局そんな面倒くさい長谷部を、「しょうがねえなあ」って厚くんが受け入れてくれるのが
うちのへし厚なのです。次の本もどうやらそんな面倒くさい長谷部と男前な厚くんのお話に
なりそうなので、もしよかったですらまたお付き合いいただければ幸いです。

語りだすと長くなっていけませんね！
それではここまでありがとうございました！！



2015年11月15日発行
印刷:マツコロ
とや まゆ[nmstk]
Pixiv ID:181217
nametake@nmstk.info

原作等公式とは一切関係ありません。
不要になりましたら処分するか専門の中古屋さんへ。
オークション等への出品は絶対におやめください。

すべしゃるさんくす ゆーたろー

吸血鬼は美少年の精液しか吸わない